

# ドイツアート Bar Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、Bar のようなくつろいだ雰囲気で、アートを語り合うイベントシリーズです。今回のテーマは、『偶然の芸術』。芸術の世界では、思い込みや想定外のインスピレーションから多くの作品が生み出されています。ともすれば軋轢や問題を起こしかねない「誤解」や「勘違い」というものは、芸術の創作において、いかに創造的たりうるのでしょうか？ また、このような誤解や勘違いは、芸術のみならず、他ジャンルにも受容されるものでしょうか？

4月中旬に来日するドイツ人芸術家5人が、3ヶ月間のレジデンス滞在の最初に、京都をはじめ国内外で活発な活動を展開する三浦 基氏（演出家）と宮永 愛子氏（美術家）をゲストに迎え、「創造的な誤解」から偶然生まれる芸術について、自身の思い込みも含めて話し合います。

座談会の後は、館内のドイツカフェ「カフェ・ミュラー」にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。



## スザンナ・ヘアトリッヒ Susanna Hertrich (美術家)

1973年生まれ。デュッセルドルフとロンドンでデザインを学んだ後、デザイン研究、メディアアート、科学技術の境界で活動。時間をテーマにした作品「クロノ・シュレッター」で国際的に大きな注目を集めた。バーゼル造形芸術大学研究員。2014年10月～15年3月末まで千葉大学特任助教。京都滞在中は、のぞきからくり等、日本の歴史的な視覚装置や錯覚装置を調査し、地域固有の記憶と関連付けた作品を創る予定。公式サイト <http://www.susannahertrich.com/>



## 三浦 基 Motoi Miura (演出家 / 劇団「地点」代表)

1973年生まれ。演出家。劇団「地点」代表。京都を拠点に、国内外で活動を展開。2011年、チエーホフ『フーニャ伯父さん』『桜の園』をモスクワで上演。また、2012年にはロンドンのグローブ座からの招聘でシェイクスピア『コリオライナス』の上演を成功させた。ほか、主な作品にブレヒト『ファッツァー』、イエリネク作『光のない』など。2013年、本拠地である京都にアトリエ「アンダースロー」をオープン。公式サイト <http://chiten.org/>



## アンティエ・テプファー Antje Töpfer (人形劇作家)

1978年生まれ。シュトゥットガルトで人形制作を学んだ後、同市を拠点に人形制作や舞台装置の製作を行う。人形劇での現代の表現のあり方や、舞台上での人間と物体の一体化に関心を持ち、作品ではそれらを力強いヴィジュアル言語で表現。様々な舞台芸術や美術分野とのコラボを活発に行い、人形劇、インスタレーション、パフォーマンス等をドイツ国内外で発表。京都滞在中は、折り紙芸術の多彩ながたちが舞台作品となりうるかを考察し、自身の人形劇に活かす予定。



## 宮永 愛子 Aiko Miyanaga (美術家)

1974年京都市生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩を使ったインスタレーションなど気配の痕跡を用いて時を視覚化する作品で注目を集める。2013年「日産アートアワード」初代グランプリ受賞。主な展覧会に「宮永愛子：なからら—空中空—」国立国際美術館(大阪、2012年)など。公式サイト <http://www.aiko-m.com/>



## フィリップ・ヴィトマン Philip Widmann (映画製作者)

1980年生まれ。ハンブルクで文化人類学やドキュメンタリー映像などを学んだ後、ベルリンを拠点に活動。2009年より映像実験グループ「Labor Berlin」メンバー。これまで多くの国際フェスティバルで作品が上映された。京都滞在中は、哲学者ハイデッガーのテキストを起点に、日本とドイツや、言語～翻訳～理解の相関関係、風景と人間と科学技術の関係等に実験的に取り組む映像作品を製作する予定。公式サイト <http://workscited.de/>



## 小崎 哲哉 Tetsuya Ozaki (司会 / 構成)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALTOKYO』『REALKYOTO』発行人兼編集長。CD-ROMブック『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』、写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、『続・百年の愚行』を刊行。



イリス・ドレーゲカンプとトーマス・ヴェーバーは、京都滞在中、水琴窟を起点に言葉や音楽、サウンドアート、即興などを結びつけたマルチメディア作品を共同製作する予定。

## イリス・ドレーゲカンプ トーマス・ヴェーバー Iris Drögekamp (ラジオドラマ演出家) Thomas Weber (音楽家)

1967年生まれ。ハンブルクでドイツ文学、哲学、歴史を学んだ後、ラジオドラマ演出家としてバーテン=バーデンとハンブルクを拠点に活動。様々な大学でラジオドラマやデジタルメディア等も教えている。CIVISラジオ賞、独仏ジャーナリスト賞などを受賞。

1969年生まれ。カールスルーエを拠点に活動。アコースティック音楽や電子音楽を背景にした作曲や即興、プロデュースを行うほか、ラジオ作品や映画音楽も作曲。1996年より音楽プロジェクト「Kammerflimmer Kollektif」を主宰し、アルバムを発表。

Photo: Iris Drögekamp

### 交通のご案内

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分  
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分



### 主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa  
京都市左京区吉田河原町19-3

(川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

[info@villa-kamogawa.goethe.org](mailto:info@villa-kamogawa.goethe.org)

[www.goethe.de/villa-kamogawa](http://www.goethe.de/villa-kamogawa)



館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。



GOETHE  
INSTITUT  
VILLA KAMOGAWA